「もっと響く指導」にするために！

生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を2006年から12年まで伝えてきた「生きたデータの徹底活用」のコーナー。更に響く指導を実現するために、これまで掲載した記事を基に現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ　3年生1学期の指導

「生きたデータ」2010年4月号を参考に、3年生1学期の指導に取り組んだところ……

図3　生徒に自分を語らせる志望校設定シート　ダウンロード

現在の志望先

・	A 大学	法 学部	法 学科
・	B 大学	法 学部	法律 学科
・	C 大学	人文 学部	人文 学科

・志望校（進路・生き方）を考える上で、優先したこと、大切にしたこと

夢を夢で終わらせるのではなく、実現できる環境が整っ
やる気を持てる大学か、そして経済的にも進学が可能かど

ここに書かれた内容をもとに、面談を行う。進路のこだわり、あるいは悩みや不安など、その生徒の今を語る上で欠かせないキーワードを面談で見つけたい

・自分はどのように生きたいか。その上で、なぜこの志望校にしたのか

より安全で確実な道を歩くことをできるかもしれないが、自分の本心に正直に、学びたいことを一番あこがれている大学で学んでみたいと考えた

・どんな勉強がしたいか、どんな職業に就きたいか、どんな興味を追求したいか

法律の勉強がしたい。そして、たくさんの人に会って社会のことを学びたい
法律の知識を生かせる仕事に就きたい

私の狙い	取り組み内容	感じた課題
生徒に3年生になったことを強く意識させると共に、志望が確固たるものかを確認したかった	4月に「志望校設定シート」を全員に配布し、1週間後の期限で回収した	シートに空欄が目立つ生徒が多くいた。気持ちを高めることに成功したとは言い難く、この時期にここまでの内容を記入させるのが適切か、疑問が生じた

「もっと響く指導」のポイント ①

生徒の自立を促しながら、志望へのこだわりを醸成する

前回、3年生を担任した際に、4月に「志望校設定シート」を記入させました。受験生としての意識を持たせるため、志望理由を整理し、書くことで自分のこだわりを見定めさせたいと思いました。ただ、**記入できない欄がある生徒も多く、更に「また志望大を書くのか……」と、目新しさのない活動と受け止められた**ようです。志望を詳細に書かせることで、受験生としての意識を高めることは、この時期にはまだ無理なのでしょうか。生徒が現実的に志望校について考えるのは、実際には秋以降ですし……。

確かに、12月になってやっと志望が固まる生徒は少なくありませんが、それは**多くの場合、入試が目前に迫ったプレッシャーの中で決めたものです。生徒の思いやこだわりを大切にし、主体的な志望決定が出来るように、3年生初期から継続的に生徒の変化を支援し、「その時」が来るのを待ちたいですね**。記入できない欄があるから書かせないのではなく、記入できないという事実も生徒の現状として受け止め、生徒の成長を促すことが必要ではないでしょうか。このシートで私たちは**「書けないこと」に注目しがちですが、何を、どんな言葉で書いているかにも目を向けると、生徒理解のヒントが見えてきます**。生徒はいつ、どのタイミングで成長するか分からないからこそ、今は志望が固まっていない生徒にも、自立が近付いていることを伝えながら、「いつかは書けるようになる」と生徒を信じることも、3年生の進路指導に必要だと思います。

＊このコーナーは、高校の先生方（今回は中国・四国地方）との検討会の内容を基に構成しています。

若手先生代表

A先生（30代）

中国地方の公立高校に勤務。14年度は2回目の3学年担任。

ベテラン先生代表

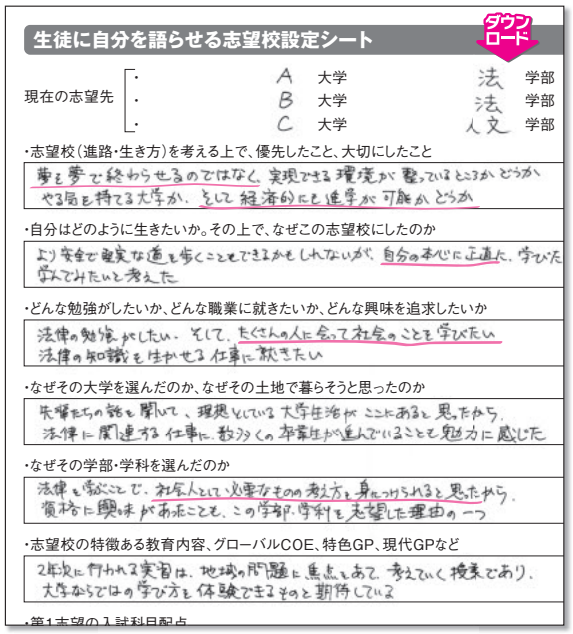
B先生（50代）

A先生と同じ公立高校に勤務。各学年の主任経験豊富。

「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」活用改訂案

STEP 1 面談前に生徒が記入した志望校設定シートに目を通し、志望のこだわりだと思われる箇所、生徒の人間的な成長が感じられる記述（生徒を肯定的に評価する箇所）に下線を引く。

STEP 2 志望校設定シートを見ながら、面談を行う。生徒が面談で発した「こだわり」「夢」などは生徒の目の前でシートに記入し、生徒を肯定的に受け入れている態度をはっきり示す。


生徒に自分を語らせる志望校設定シート　ダウンロード

現在の志望先
- A 大学　法 学部
- B 大学　法 学部
- C 大学　人文 学部

・志望校（進路・生き方）を考える上で、優先したこと、大切にしたこと
夢を夢で終わらせるのではなく、実現できる環境が整っているところかどうか
やる気を持てる大学か、そして経済的にも進学が可能かどうか

・自分はどのように生きたいか。その上で、なぜこの志望校にしたのか
より安全で確実な道を歩くこともできるかもしれないが、自分の本心に正直に、学びたい
学んでみたいと考えた

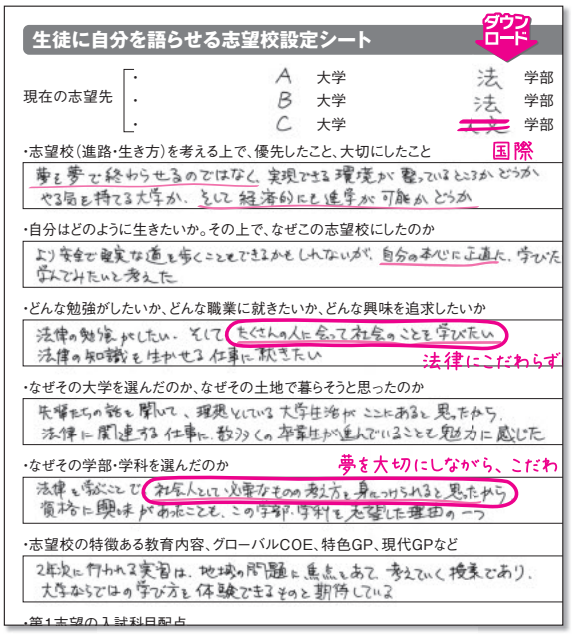
・どんな勉強がしたいか、どんな職業に就きたいか、どんな興味を追求したいか
法律の勉強がしたい。そして、たくさんの人に会って社会のことを学びたい
法律の知識を生かせる仕事に就きたい

・なぜその大学を選んだのか、なぜその土地で暮らそうと思ったのか
先輩たちの話を聞いて、理想としている大学生活がここにあると思ったから。
法律に関連する仕事に、数多くの卒業生が進んでいることも魅力に感じた

・なぜその学部・学科を選んだのか
法律を学ぶことで、社会人として必要なものの考え方を身につけられると思ったから。
資格に興味があったことも、この学部・学科を志望した理由の一つ

・志望校の特徴ある教育内容、グローバルCOE、特色GP、現代GPなど
2年次に行われる実習は、地域の問題に焦点をあて、考えていく授業であり、
大学からではの学び方を体験できるものと期待している

・第1志望の入試科目配点


生徒に自分を語らせる志望校設定シート　ダウンロード

現在の志望先
- A 大学　法 学部
- B 大学　法 学部
- C 大学　~~人文~~ 学部　国際

・志望校（進路・生き方）を考える上で、優先したこと、大切にしたこと
夢を夢で終わらせるのではなく、実現できる環境が整っているところかどうか
やる気を持てる大学か、そして経済的にも進学が可能かどうか

・自分はどのように生きたいか。その上で、なぜこの志望校にしたのか
より安全で確実な道を歩くこともできるかもしれないが、自分の本心に正直に、学びたい
学んでみたいと考えた

・どんな勉強がしたいか、どんな職業に就きたいか、どんな興味を追求したいか
法律の勉強がしたい。そして、たくさんの人に会って社会のことを学びたい　法律にこだわらず
法律の知識を生かせる仕事に就きたい

・なぜその大学を選んだのか、なぜその土地で暮らそうと思ったのか
先輩たちの話を聞いて、理想としている大学生活がここにあると思ったから。
法律に関連する仕事に、数多くの卒業生が進んでいることも魅力に感じた

・なぜその学部・学科を選んだのか　夢を大切にしながら、こだわ
法律を学ぶことで、社会人として必要なものの考え方を身につけられると思ったから。
資格に興味があったことも、この学部・学科を志望した理由の一つ

・志望校の特徴ある教育内容、グローバルCOE、特色GP、現代GPなど
2年次に行われる実習は、地域の問題に焦点をあて、考えていく授業であり、
大学からではの学び方を体験できるものと期待している

・第1志望の入試科目配点

STEP 3 面談の中では、生徒の情報不足、誤解や矛盾も明らかになる。面談ではそうした点にも生徒と共に向き合いながら、「考え直したり、追加で調べたりしたことを、このシートに書き加えてみよう」と指導する。この際、あえて提出期限を決めずに、生徒の自主的な提出を待つことで、生徒の自立を促す。ただし、なかなか提出しない生徒に対しては、「悩んでいることがあれば聞くよ」と適宜声掛けを行う。

「もっと響く指導」のために改訂すると……

つまり、「志望校設定シート」が**効果を発揮するのは書く瞬間だけではないのです。受験生の１年間は自分と向き合う１年間でもあり、今回のシート記入は、そのスタートとなる活動**だと生徒に伝えたいものです。

面談で志望を確認していくのであれば、生徒に負担を掛けてまで、シートに細かく書かせる必要はないのではないかと考えている先輩先生もいらっしゃるようですが……。

その時点の志望を確認するだけなら、口頭で十分ですよね。ただ、志望のこだわりを把握し気付きや行動につなげる面談を行うには、こうしたシートで生徒の現状を把握した上で、**「君からは何度もこの言葉が出てくるけれど、これがこだわりなのかなあ」「今、君が話してくれたことはとても大切なことだと思うよ。このシートに盛り込んでみてはどうかな？」**と対話することが必要です。**面談での教師の気付き、生徒の気持ちの変化を書き加えることで、生徒の「思考のヒストリー」が読み取れるポートフォリオが出来る**メリットもあるでしょう。

プラスαの検討ポイント　From 編集部

自校の生徒特性に合ったシートのあり方を検討する

今回の記事の検討会では、ある先生が「生徒はシート記入を通して内面をさらけ出します。ならば、教師はそれに見合ったうま味を生徒に与えるべきですよね」とおっしゃいました。その意味では、シートの質問項目に沿って書く過程で生徒が前向きになれたり、考えを深められたり出来ることが重要です。「どんな大人になりたいか」「高校生活で一番頑張ったことは何か」などを聞きながら、具体的な志望先記入に導くことが有効な学校もあるでしょう。自校のシートは生徒特性に合っているか、校内で話し合ってみてはいかがでしょうか。

「もっと響く指導」のポイント ②

学年団全員が自分ごととして考えることで、共感度の高い「指導フロー」を作る

「生きたデータ」2010年4月号を参考に、指導フローの作成に取り組んだところ……

図1 学年団の目線合わせのための指導フロー　ダウンロード

月	全体の動き（●＝担任の動き）	共有のポイント
4月	スタディーサポート（3年生1回） 志望校調査（志望校設定シート） スタディーサポート結果分析検討会	●学年の現状を把握し、今年度の教科指導・学年経営の基軸設定と修正 ●あるべき学習習慣と進路志望状況を個別に具体的に指導できるように
	面談	●生徒の志望の背景を知り、年間指導に有効活用（6月の模試までに、進路について考えておくべきこと、調べることなどを提示するとよい） ●志望校設定シート、スタディーサポートデータを活用して具体的にアドバイスし、実践させる
	LHR	●1年間の学年目標、進路行事などを共有 ●ゴールデンウィークで遊ばせないためにも、「この時期がいかに大切か」を、入試からの逆算で考えさせる→先輩データで意識付ける
5月	ゴールデンウィーク	[illegible]

私の狙い	取り組み内容	感じた課題
学年団全体で3学年の指導の取り組みの流れやそれぞれの狙い・関連を確認したかった	教師の目線合わせのための指導フローを学年主任が作成し、学年会で配布した	指導の流れの確認は出来たが、形式的な理解にとどまり、深い議論や、実践の検討に至らなかった。特に新任、若手の理解に不安を感じた

2014年度、A先生と一緒に3学年団に所属しますが、A先生にぜひ意見を聞きたいことがあります。以前、3学年主任をした時に、3年生の指導フローを作成し、学年団で目線合わせをしました。基本的な共有は出来たのですが、スケジュールを確認するような、形式的な理解にとどまったような気がしました。私としては、完成形として指導フローを提示したつもりはなかったのですが……。学年の生徒の状況は毎年同じではありませんから、**生徒に一番近い担任の先生方の意見を盛り込んだり、見直したりしながら、「この学年ならでは」の指導フローにすることが出来ないか**と思いました。

私のような若手や本校での赴任歴の浅い先生は、こうしたフローがあると、学年として何を大切にすべきかが分かるのでとてもありがたいです。半面、こうして流れを全て提示いただくと、**これが完成形、見本のように思えてしまう**のは仕方ないことだと思います。私自身、このフローを見て、担任として更により良くしようと考え、学年会議で発言できるかといえば難しいと思います。

なるほど。完成した指導フローに見えてしまうことが良くないのですね。それならば、**あえて完成していない形で学年会に出して**みたらどうでしょうか。私たちは、保護者会で配布する資料で、わざと重要なところを空欄にしておき、保護者の注意を引くことがありますが、同じことを学年会で試みたらどうなると思いますか？

ダウンロード **このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます！**　生徒指導・進路指導ツール集

ベネッセ教育総合研究所 http://berd.benesse.jp

生きたデータ　検索

HOME→教育情報→高校向け→
生徒指導・進路指導ツール集でご覧ください

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご活用ください！

2007年4月号「受験生にするための3年生1学期の意識付け」
2011年6月号「生徒の『やる気』を生かす3年生夏休み前の意識付け」
2013年6月号「3年生　夏休み前の意識付け」

「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」作成改訂案

STEP 1 学年主任が、議論の土台となる指導フローを、適宜空欄を作った状態で提示する。「正解を求めているのではなく、それぞれの先生の感性を大切にして、自由に記入してほしい」「多様な意見で学年団を強くしたい」と取り組みの意図を説明する。

学年団の目線合わせのための指導フロー ダウンロード

月	全体の動き（●＝担任の動き）	共有のポイント	メモ
4月	「スタディーサポート（3年生1回） 志望校調査（志望校設定シート） └スタディーサポート結果分析検討会	●学年の現状を把握し、今年度の教科指導・学年経営の基軸設定と修正 ●あるべき学習習慣と進路志望状況を個別に具体的に指導できるように	
	面談	●生徒の志望の背景を知り、年間指導に有効活用 （6月の模試までに、進路について考えておくべきこと、調べることなどを提示するとよい） ●	
	LHR	●1年間の学年目標、進路行事などを共有 ●	

STEP 2 指導フローの空欄部分に入れるとよいことを、事前に考えてもらい、学年会で埋めていく。指導フローの中にメモ欄を設けて、学年団で議論が盛り上がったこと、意見が分かれたことなどを記録し、次回以降の学年会で検証することで、学年団の指導力を高める。また、次年度へも引き継いでいく。

学年団の目線合わせのための指導フロー ダウンロード

月	全体の動き（●＝担任の動き）	共有のポイント	メモ
4月	「スタディーサポート（3年生1回） 志望校調査（志望校設定シート） └スタディーサポート結果分析検討会	●学年の現状を把握し、今年度の教科指導・学年経営の基軸設定と修正 ●あるべき学習習慣と進路志望状況を個別に具体的に指導できるように	部活動に所属する生徒に向けてどんなメッセージをおくるとよいか？ （部活動引退後、遅れを巻き返せる生徒と、巻き返せない生徒の違いは、どこで生じるのか？）
	面談	●生徒の志望の背景を知り、年間指導に有効活用 （6月の模試までに、進路について考えておくべきこと、調べることなどを提示するとよい） ● スタディーサポート、志望校設定シートを活用する	メモ欄を「私のクラスでの活動」を書き込む欄にすることで、それぞれの「担任らしさ」を会議の場に持ち込みやすくすることも出来る
	LHR	●1年間の学年目標、進路行事などを共有 ● 高２までの総復習の大切さを体験談を通して伝える	

この指導フローに空欄を作っておき、穴埋め式のようにして提示することで、各担任が「ここにはどんな言葉が入るのだろうか」と考える機会になればよいのですが……。

確かに、学年主任から示されたものを見て終わりではなく、自分で考えて初めて共有できる気がします。ただ、会議の場でいきなり「どんな言葉だと思うか？」と聞かれるのではなく、何日か掛けて、事前に考えることが出来ればよいと思います。全く分からないところは、ベテランの先生に聞いておくことも出来ますし。また、校内の共有サーバーに記入用のデータを保存しておき、自由に書き込めるようにしてもよいと思いました。

担任の「その人らしい言葉」が盛り込まれたり、多様な意見が書き記されたりすることで、学年団のカラーが初期段階で醸成できると思います。そうした豊かな同僚性があって、**１年間を通して得点率や合格最低点などの数値に厳しく向き合い、生徒の学力に責任を持つために柔軟に行動できる集団になれる**のだと思います。

プラスαの検討ポイント From 編集部

考える工程を少しでも盛り込み、参加する先生の当事者意識を高める

今回の記事の検討会では、先生方から３学年団の多忙さを懸念する声が上がりました。指導フローを未完成のまま学年団に提示し、考えてもらうことが難しい場合もあるかもしれません。ある先生は「指導フローを見ながらポイントだと思う部分に印を付ける作業を盛り込むだけでも、一人ひとりの捉え方はより主体的になるはずです」とおっしゃいました。文系と理系で学年団を２つに分けてから「重要な指導ポイントベスト３」を挙げて比較するなど、負担を掛けずに各先生が当事者意識を持って参加できる工夫は少なくなさそうです。